

## 目標達成計画

作成日: 令和3年2月9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組みについて、新型コロナウイルスへの対応としての会議に替えての書面開催の場合に、参加者から意見・提案が出やすい工夫をした議題の選定や運営状況の説明資料作成をおこなう。	運営推進会議において、事業所側からの一方通行の発信ではなく、一般質問とともに参加者の発言・提案の意欲を導き出せる工夫をし、参加者の過半数からの意見・提案を得られるようにする。	会議開催時に資料とともに配布、または文書開催の際に同封郵送する「ご意見・ご質問票」に、一般質問に加えその都度設けたテーマに対し、選択式・記述式の形式を工夫する。文書開催の現状は入居者18名中3～5名の回答実績であるが、過半数10名以上のご家族からの回答	10ヶ月
2	6	身体拘束をしないケアの実践のうえで、現状の各階出入り口の施錠の是非、および入居者に対しスピーチロックをしていないかに関して、職員間で同じ意識を持つための取り組みをおこなう。	慣例的に行われている介護行為について、身体拘束的な行為であるか否かを自問し、他者の意見も得て、気づき、改善する。	身体拘束に関する施設内研修において、現状では慣例となっている「出入り口の施錠」や「言葉使い」について、あらためて議題とし、確認・改善する。 面会等で来所される入居者家族や、外部の専門知識を有する介護関係者・行政・地域包括支	6ヶ月
3	11	職員意見を運営に反映させる取り組みにおいて、今回の外部評価において入居者家族から返送されたアンケート調査結果の内容を周知・討議し、事業所運営に役立つものとさせる。	業務改善のための検討の場において、当該アンケート結果を周知し、事業所運営に役立てる。	施設内ミーティングや研修の場において、業務改善検討議題として当該アンケートの内容をスタッフに報告し、少数意見も含めて討議し、改善策を立案する。 具体的な取り組み事例をその後の運営推進会議において報告し、参加者の意見を求める。	6ヶ月
4	35	災害対策において、夜間に非常階段の踊り場に避難することを考慮し、人感センサー付き照明器具の設置を検討する。	非常時の夜間の退避経路を把握し、安全な非難が行えるよう設備を整える。	実際に非常出口から非常階段を使用し避難場所までの経路を確認し、暗さのため段差・避難方向が分かりづらくなならないよう、必要な箇所に人感センサー照明を設置し、カラーテープ等で視認性が高くなる工夫をする。	3ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。